town topics

まちのわだい

夏を楽しむイベント
第8回つべつ七夕まつり開催

8月4日、夏の風情を楽しむイベント『第8回つべつ七夕まつり』（主催　つべつ七夕まつり実行委員会）が、さんさん館及び同駐車場で開催されました。

特設ステージでは、山鳴太鼓保存会の演奏やまる太くんイベント、北見市出身の歌手・真彩さんのライブなど、盛りだくさんのパフォーマンスが披露され、来場者を楽しませました。

また、会場内に設けられた手づくりの屋台村は、冷たい飲み物や焼き鳥などを求める人々でにぎわいを見せ、日没後にはこども花火で盛り上がりました。

▲願い事を書いた短冊がいっぱい

▲屋台には多くのお客さんが

▲特設ステージ前のにぎわい

▲真彩さんのライブステージ

11チームが来町、子どもたちへの指導も
スポーツ合宿に多くのチームが訪れる

今夏も、7月から8月にかけ、津別町に道内外の実業団、大学、高校などのスポーツチームが合宿に訪れました。

わが町の夏の風物詩ともなったスポーツ合宿。今年は、ラグビー、野球、サッカー、バスケットボール、スキーの計11チームが来町し、町内の施設を利用して、技術の向上とリフレッシュを両立した合宿生活を送りました。

また、各チームによる、町内のスポーツ少年団へのクリニックも行われ、参加した子どもたちは、第一線で活躍する選手たちから技術を教わりながら、ふれあう機会に恵まれました。

▶野球合宿　旭川明成高校とキャッチボールする津別野球少年団イーグルス

▶バスケ合宿　大阪産業大学に教わる津別ミニバス少年団

福祉と健康の大切さにふれる「おまつり」
第27回つべつふれあい広場を開催

7月29日、中央公民館で「第27回つべつふれあい広場」が開催されました。

同広場は、地域のみんなが交流を深め、福祉や健康等に興味を持ってもらうことを目的としたもので、社会福祉協議会が主催し、町内24団体で実行委員会を立ち上げて行う「福祉のおまつり」です。

会場では、友愛セールや健康づくりコーナー、模擬店が軒を連ねました。また、インテリアコーディネーターの牧野准子さんを講師に招いての福祉講演会も行われ、自身が難病で車椅子の生活となった経験から、住む人にやさしい家づくり、まちづくりの提案がされました。

会場に訪れた人たちは、様々なイベントや講演を通じて、福祉や健康について考える機会としていました。

人づくりまちづくり活動支援事業を活用
活汲地区で3年ぶりの盆踊り大会

8月14日、活汲地区で3年ぶりとなる納涼盆踊り大会が、旧活汲小中学校グラウンドを会場に開催されました。団体の自主的なまちづくり活動を支援する「津別町人づくり・まちづくり活動支援事業」を活用したものです。

旧活汲小中学校の取り組みを引き継ぐリコーダーサークル「RECつべつ」の演奏が披露された後、仮装盆踊りがスタート。

小雨が降るあいにくの天気でしたが、大人も子どもも大きな輪を作り、やぐらを囲んで踊りました。子ども縁日や花火も行われ、大勢の人たちがふるさとに集い、行事を楽しんでいました。

▶趣向を凝らした仮装姿の参加者

第68回社会を明るくする運動
ふれあい町民のつどい開催

7月20日、第68回社会を明るくする運動「ふれあい町民のつどい」兼「津別町連合PTA研修会」（主催　社明運動津別町推進委員会・他）が、中央公民館で開催されました。

主催者あいさつなどに続いて、社会を明るくする運動標語コンクール表彰式が行われ、入賞者に賞状と記念品が贈られました。

後半は、岩井孝浩さん（有限会社イワイ代表取締役）が「子ども達を取り巻くネット社会の現状と実態」と題する講演を行い、スマホやネットの危険性や家庭での適切な活用法を、実例を挙げて紹介しました。

標語コンクール表彰式▶
▼講演の様子

ソフトテニス全道大会で健闘
津別中の生徒が結果報告

中体連第39回北海道中学校ソフトテニス大会（7月30日～8月1日／北見市）において好成績を収めた、津別中学校ソフトテニス部の生徒が、8月16日、役場を訪れ結果報告しました。

男子個人の部で、3年生の荒川裕貴（ゆうき）くん、中山奏琉（かなる）くんの組が、見事に優勝して全国大会（8月21日～／広島県）に進出。

女子は、6人が出場した団体の部で初の3位入賞を果たしたほか、個人の部で2年生の植松歩有子（ふうこ）さん、佐々木里奈（りな）さんの組がベスト8に入るなど、大いに健闘しました。

▲竹俣副町長、宮管教育長と笑顔で記念撮影

地域おこし協力隊の思いつき日記

地域おこし協力隊隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

その58　「ふるさと納税」業務

山田佳世

愛知県出身。津別生活3年目。採りたて野菜のおいしさに魅せられ、野菜作りに奮闘中。

私が携わっている「ふるさと納税」業務。寄附手続きの際に、応援メッセージを書いてくださる方々がいます。

先日、20年以上前に津別町にいらっしゃった方から、素敵なメッセージをいただいたので一部をご紹介します。

「・・・それからは津別町を、私のふるさとのように忘れた事はなかったです。帰りたいけど帰れない心のふるさと。（中略）津別町は自然も含めてゆったりとした優しい町のままでいてほしいと願っています。この町に訪れた人にとって永遠のふるさとと思えるような場所であってほしいです」。

この他にも、道の駅や民泊体験での思い出・返礼品に対する感想等、寄せられるメッセージは、どれも読んでいて心が温まるものばかりで、自分事のようにとても嬉しく思います。

寄附者の方々は、町に何らかの関わりを持ってくださった方が大半です。関わりの発信源は、人・観光地・特産品など様々ですが、「津別」に愛着を持って下さっています。

町の皆様のココロが、津別を訪れる人々に伝わっているのを感じながら仕事ができるのはとても有難く、幸せだと感じます。

「ふるさと納税」を通じて、より多くの方に町の魅力を伝えていきたいと思います。